

日 時 令和8年

1月31日(土)

13:00 ~ 16:30 (開場 12:30 ~)

会 場

米子市淀江文化センター 大ホール
米子市淀江町西原708-4

参加費
無料

※要事前申込

定員
500名

古墳時代後期の 地域間交流

—繼体天皇と磐井のはざまで揺れる
淀江の古墳—

向山古墳群(鳥取県米子市)

内 容

司会 佐藤宏之氏
(東京大学大学院人文社会系研究科・特任研究員、東京大学名誉教授)

- 主催者挨拶 村本由紀子氏 (東京大学大学院人文社会系研究科長・文学部長)
- ご挨拶 伊木隆司氏 (米子市長)
- 趣旨説明・プロジェクト活動報告 佐藤宏之氏
- 基調講演Ⅰ 「繼体天皇と磐井の乱と淀江の古墳」
高松雅文氏 (三重県埋蔵文化財センター調査研究1課 主幹兼課長代理)
- 基調講演Ⅱ 「横穴式石室からみた淀江と九州の地域間交流」
重藤輝行氏 (佐賀大学芸術地域デザイン学部 教授)
- 基調講演Ⅲ 「山陰の横穴式石室からみた淀江の地域間交流」
坂本豊治氏 (出雲弥生の森博物館 博物館学芸係 係長)
- 討論「古墳時代後期の近畿・淀江・九州の地域間交流並びに政治的関係」
コーディネーター: 佐藤宏之氏、佐古和枝氏 (関西外国语大学 教授)
パネリスト: 高松雅文氏、重藤輝行氏、坂本豊治氏
コメンテーター: 村本由紀子氏
松田陽氏 (東京大学大学院人文社会系研究科・准教授、プロジェクト・リーダー)

申込み方法

電話・FAX・メール等で

- ① 代表者お名前
- ② 代表者ご連絡先電話番号
- ③ 参加希望人数(代表者含む)を添えて
米子市淀江文化センターにお申込みください。

- 電話 0859-39-4050
- FAX 0859-39-4051
- Eメール saname@yonagobunka.net
- メール申込フォーム QRコード



<開館時間> 9:00 ~ 22:00

<休館日> 毎週水曜日と年末年始(12/29 ~ 1/3)

東大人文・淀江プロジェクトとは

1901年日本の考古学・人類学の草分けと評される坪井正五郎氏(東京帝国大学教授)は淀江町を訪ね、本州唯一の石馬に注目しました。また、長者ヶ平古墳から発見された金銅製冠などの副葬品は、今も東京大学に保管されています。そのような縁もあって、東京大学文学部に、令和4年から当面5年間の予定で立ち上がった淀江研究のプロジェクトです。令和4年7月にスタートアップ・シンポジウム、令和6年1月に第2回シンポジウム、令和6年11月に第3回シンポジウム、令和4年11月と令和5年1月、令和6年10月、令和7年10月に市民講座、令和5年3月と令和7年3月、7月に特別講座を実施しました。

主 催 東大人文・淀江プロジェクト

[東大問い合わせ先] プロジェクト室(佐藤) ☎ 03-5841-4046 hsato@l.u-tokyo.ac.jp
事務担当(瀧口) ☎ 03-5841-4028

共 催 米子市、一般財団法人米子市文化財団 [米子市淀江文化センター]

後 援 鳥取県、NPO法人むきばんだ応援団、一般社団法人淀江ロマン遺跡回廊

古墳時代後期の地域間交流

—継体天皇と磐井のはざまで揺れる淀江の古墳—

趣旨

古墳時代後期（6世紀）はじめの倭国は、大王（記紀では「天皇」と記す。）の後継者争いと緊迫した国際情勢によって、政治的に不安定な時期にありました。

この時期に大王となった継体でしたが、安定した政権運営には苦労します。

この頃、九州の大豪族・磐井は、国際情勢に乗った政治を進めるなどを画策します。

淀江の古墳群には、磐井勢力と倭政権の両者からの影響が混在しています。

いったい継体と磐井のはざまで、淀江の首長たちはどのような役割を期待されたのでしょうか。

このシンポジウムでは、当時の国内・国際情勢のなかで、九州および倭政権それぞれにとっての山陰

そして淀江の首長たちの立ち位置、役割等を明らかにし、当時の倭政権のあり方について考えてみたいと思います。

講師プロフィール



高松 雅文 氏 三重県埋蔵文化財センター調査研究1課 主幹兼課長代理

1978年兵庫県生まれ。

大阪大学文学研究科博士後期課程単位取得退学。

大阪府立近つ飛鳥博物館学芸員を経て、2010年より現職。専門は古墳時代の金属製品。

主な関連研究として、

高松雅文「古墳時代後期の政治変動に関する考古学的研究」（『研究集会 近畿の横穴式石室』横穴式石室研究会、2007年）

廣瀬時習・高松雅文編『継体大王の時代』（大阪府立近つ飛鳥博物館、2010年）

高松雅文「大化前代地域支配に関する諸制度と古墳」（『日本考古学の論点』雄山閣、2024年）



重藤 輝行 氏 佐賀大学芸術地域デザイン学部 教授

1968年大分県生まれ。

福岡県教育庁文化財保護課、佐賀大学文化教育学部を経て、2016年より現職。

専門は古墳時代～古代の九州の考古学。

最近の研究としては「吉野ヶ里遺跡発掘調査における3次元データを活用した調査法に関する研究」（共著、『佐賀大学地域歴史文化研究センター研究紀要19』、2025年）、「古墳時代の渡来人集団の特性と動態」（『東アジア考古学の新たな地平』中国書店、2024年）、「九州における横穴式石室の展開－編年・地域性・階層性の概観－」（『横穴式石室の研究』同成社、2020年）等がある。



坂本 豊治 氏 出雲弥生の森博物館 博物館学芸係 係長

1975年島根県益田市生まれ。

出雲市教育委員会を経て、2011年より現職（出雲弥生の森博物館学芸員）。

専門は弥生時代から古墳時代の出雲の考古学。

最近の研究としては「横穴式石室からみた出雲西部の首長墳の展開」（『古代出雲と吉備の交流』島根県教育委員会、2023年）、「山陰地域の墳丘墓からみた集団と土器祭祀」（『地域と交流の考古学 日本書紀研究』日本考古学協会2024年度島根大会資料集）日本考古学協会2024年度島根大会実行委員会、2024年）

「出雲地域における弥生後半期の集落遺跡」（『弥生後期社会の実像 集落構造と地域社会』六一書房、2025年）等がある。

コーディネータープロフィール



佐藤 宏之 氏 東京大学大学院人文社会系研究科・特任研究員、東京大学名誉教授

1956年仙台生まれ。

東京大学名誉教授。同大学院人文社会系研究科特任研究員。専門は先史考古学と民族考古学。

特に日本および東アジア先史時代の技術・行動論及び現生狩猟採集民の居住形態研究。また大学や行政の地域・社会連携活動に長年携わってきた。

アジア旧石器協会会長、日本旧石器学会前会長、日本考古学協会前副会長。文化庁文化審議会第三専門調査会委員、日本学術会議連携会員。北海道北見市常呂遺跡史跡整備委員会・山形県高畠町日向洞窟遺跡調査検討委員会・東京都小平市鈴木遺跡整備基本計画検討委員会の各委員長等を務めている。



佐古 和枝 氏 関西外国語大学 教授

鳥取県米子市出身。NPO法人「むきばんだ応援団」副団長として米子市妻木晩田遺跡の普及活用に取り組む。

現在、文化庁文化審議会第一及び第三専門調査会専門委員、長崎県文化財保護審議会委員など。主な著書は、「吉野ヶ里～繁栄した弥生都市」、「ようこそ考古学の世界へ」、「海と山の王国～妻木晩田遺跡が問いかけるもの」ほか多数。